

2017年度 天文資料

平成29年度 第7号 (10月号)

平成29年 9月20日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜中秋の名月＞

旧暦の8月15日の夕方に出る月を、「**中秋の名月**」といい、昔からこの日にお月見をする習慣があります。例年9月の満月付近が中秋の名月となりますが、**今年**は旧暦の閏年に当たり、年間13か月となるため少しずれが生じ、**10月4日が中秋の名月**となります。また、この日は満月ではなく、**2日後の6日が満月**です。そのため少し欠けた中秋の名月となりそうです。今回は、この中秋の名月に因んで月を中心に取り上げます。



＜中秋の名月のお供え物＞

今年**の**中秋の名月は、**10月4日**です。この日の佐世保での月の出は**17:21**、このときの月齢が約**14.1**※1、したがって少し欠けた**中秋の名月**となります。そして、**南中時刻が23:18**、夕方東の空に昇った名月を、夜遅くまでじっくりと眺めることができます。十五夜とは、旧暦の各月15日の月をさしますが、特に「**十五夜**」という場合は、旧暦の8月15日の月、つまり**中秋の名月**をさします。この名月へのお供え物と言えば、何といても**ススキ**と**月見団子**。ススキは月の神様を招く「**依り代**※2」として供えるもの、また、これからの**稲の収穫**を祈って**稲穂に形**の似たススキを供えるとも言われます。また、この時期はちょうど**里芋の収穫期**に当たり、**里芋**を供えることもあります。このため中秋の名月は「**芋名月**」とも呼ばれます。



中秋の名月へのお供え物



月見団子は、**稲の収穫**を祈って、**米粉**で団子を作り供えるのです。また、**里芋**に似せて団子を作るとか、**満月の形**をかたどって、団子をお供えするとも言われます。

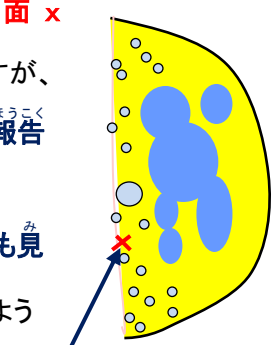
一方、中秋の名月から約1か月後の旧暦9月13日の月を「**十三夜(後の月)**」と言って、この日もお月見をします。十五夜がこれからの**収穫**を祈る意味合いが強いのに対し、十三夜は**稲などの収穫に感謝**する意味合いを持っています。この時期に採れる**栗や枝豆**を供えることから、「**栗名月**」とか「**豆名月**」と呼ばれます。今年**の**十三夜は、**11月1日**です。

※1:この日の12:00の月齢が13.9なので、17:21頃は約14.1となる。

※2:依り代とは、神霊が寄り付く対象物を言う。

＜10月27日に月面 x が見られる＞

上弦の月のころ、欠けぎわに**アルファベットの x に似た形の地形**が見ることがあります。これが、**月面 x**です。これは以前から見えていたようですが、**2004年、カナダのChampan氏らの報告**によって、広く知られるようになりました。この月面 x は、**上弦の月の時にいつも見えるわけではありません**。ちょうど見えるように太陽の光が当たるのが、**1時間程度**ここに**x型の地形**があると非常に短く、この時に月が見える位置にあるかが問題となります。今回は、**10月27日20:30前後**に見えるということです。肉眼では見えにくいので、**望遠鏡か双眼鏡、またはカメラのズーム**を使って観察してみてください。撮影にも挑戦してみましょう。



＜10月、土星の環が最も大きく開く＞

今年**は**春から、**土星**がよく見えています。この土星、**環を持つ惑星**として人気がありますが、この環は、**大きさの割に厚さがとても薄く、真横**から見ると環が見えなくなります。**15~16年に1度の割合**で見えなくなり、前回は**2009年**に、次は**2025年**に見えなくなります。今年はそのちょうど**中間に当たり、環が大きく開いて見える年**、しかもこの**10月が最も大きく開きます**。望遠鏡をお持ちの方は、ぜひ土星に向けてみてください。なお、少年科学館では、**10月28日(土)18:00より、天体観望会**を行います。観望会参加ご希望の方は、**ご来館くださるか、お電話にてご予約**ください。



探査機が撮影した土星